

平成28年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1)中堅私学として進学志望校に選択される学校、安定した入学生徒数を確保できる学校  
○学習への取り組みを強め、授業の充実と理解度を高め、進学実績を高める  
○人間性を高める取組みとしてクラブ活動等を活発にし、思いやりと礼節のある生徒を育てる
- (2)学校生活の充実  
○各コースコンセプトに沿って、充実したカリキュラムと授業展開・生徒の力を引き出す進路指導  
生徒の意欲と人間性を育む課外活動の充実等 生徒・保護者の満足度を更に高める  
○施設、設備、環境整備…女子のクラブ活動育成のための設備、学園既存施設・公施設の活用、快適で清潔な学習環境づくりを年次計画で進めていく
- (3)保護者との連携を強め、共に協力して子どもを育てる

2. 中間的目標

- 学習指導構想**
- (1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ  
○授業を真剣に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す  
○高大連携の進展を目指す、特に系列大学との連携を強化する  
○外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする  
○成績等のデータをシステム管理し有効利用を目指す、また教材教具の充実を図る
- (2)不登校など生徒への指導  
○不登校生徒に対する教室復帰への補助と学力保障の取り組みを行う  
○特別支援教育の取り組み強化、カウンセリングの充実
- 生活指導構想**
- (1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す  
○ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う  
○基本的生活習慣の確立  
○社会的マナーを遵守する姿勢の向上  
○保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大
- (2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携
- 進路指導構想**
- (1)系列大学を含めての連携  
○系列大学との高大連携の取組を強化する（系列大学の魅力を生徒に浸透させる）  
○大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する
- (2)一般入試・センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化する  
○安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む
- (3)学習指導と進路意識の高揚を図る（総合の時間等の利用）
- 入試・渉外構想**
- (1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市をしっかりと押さえ、近鉄奈良線沿線生駒市・奈良市および、阪神なんば線沿線の中学校から、安定した入学生徒数を確保する
- (2)入試広報の効果アップを図る
- (3)学校の教育姿勢および各コースのコンセプトの周知を図る
- (4)特化したコース<文理進学・スポーツ・デザイン>の浸透を図る
- (5)オープンスクール・塾対象説明会・入試説明会・デッサン講習会等の充実を図る
- (6)重点地域への広報活動（地元を含め、重点地域へのピンポイント広報）を進める
- (7)対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る
- 教員の研究・研修構想**
- (1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施を進める
- (2)生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る
- (3)今年度は実践校訪問および研修を実施する特に内容としては、今後の高大接続改革・学習指導要領改訂に備える取り組みとする
- (4)外部研修会への積極的な参加を図る(有名予備校実施の授業力アップ講座受講を継続する)
- (5)危機管理教育の徹底
- その他**
- (1)地域との交流を深める(あいさつ運動、地域清掃、学校評価への参加、学校行事への参加等)
- (2)国際感覚の育成と英会話の実地体験  
○海外修学旅行の実施・内容の充実を図る
- (3)学校評価の取り組みとその活用
- (4)衛生管理上、教職員の勤務時間が著しく超過しないように配慮する
- (5)経費(積立金・諸費用等)の適正な処理と保護者負担の軽減を図る

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[平成28年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><b>□学校生活全般</b></p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 75% 女 70%、保護者 92%、教員 76%) 参考) 昨年度 (70) (65) (91) (64)</p> <p>○「自分のクラスが楽しい」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 83%、保護者 85%、教員 93%)</p> <p>【分析】 「学校の雰囲気について」の質問に対して、生徒・保護者は概ね肯定的な回答である。特に保護者から高い評価を得ており、生徒から聞く学校生活、または保護者の方が来校された際の雰囲気などを評価していただいた結果と考えられる。学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、概ね肯定的な回答が出されていることは評価できる。クラス活動を豊かなものにとという生徒たちの考えと、学級担任の努力の結果と言える。 「コースの取り組み」については生徒は概ね肯定的な回答であるが、保護者・教員は若干ではあるが、否定的に推移している。特に教員はその傾向が強い。教員側の描いているコース像と生徒のものとの相違が生じている可能性も考えられる。生徒のコースに対する意識を調査することも今後必要と思われる。 「資格取得の多様性」「教員の教育熱心」についても概ね肯定的な回答が出ている。さらにその数値が上がるように、学校として努力を継続する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケートで、コースの取り組みに満足できていないのは、やりたいことが多いからだと思われる。予算や、コースのバランスの兼ね合いで、抑制されている部分がある。</li> <li>・昨年度から、完全下校時間を 22 時から 21 時に変更したが、教員は夜遅くや休日でも、クラブや授業外の指導で残っている。教員の仕事内容は幅が広くて、「面倒見がいい」といわれる取り組みをしていると思う。</li> <li>・保護者からは、文理コースでは、勉強するクラスの雰囲気を作っていただいて、遅れていた勉強の指導や、帰宅が遅くなるときにはきちんと学校から電話連絡もあったという感謝の言葉を頂いた。</li> </ul>
<p><b>□学習に関して</b></p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 75% 女 69%、保護者 75%、教員 85%)</p> <p>○「意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 75% 女 72%、保護者 70%、教員 20%)</p> <p>【分析】 「授業のわかりやすさ」について、生徒の肯定的回答が7割を占めているが、2年において否定的回答が30%を超えていることは問題視する必要がある。また保護者の数値も25%に達している。学校は学習する場であるのでその数値を肯定的なものに変化させていくことが必要であり、その改善のためにリサーチしていく必要がある。教員の数値は比較的肯定的な回答となっている。公開授業や外部の教科指導研修会などへの参加も以前よりも増えており、教授法に対する研究は高くなっている。しかし、生徒の意見にも耳を傾け、さらに充実を図る努力が必要である。 「授業への意欲的な取り組み」は生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。更に向上心を持って授業に臨んでほしいという意識の表れと分析できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、去年に比べ教員自身の評価が上がってきている。公開授業などの取り組みがよかったのではないかとと思われる。</li> </ul>
<p><b>□進路指導に関して</b></p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 84% 女 82%、保護者 78%、教員 85%)</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 男 80% 女 78%、保護者 77%、教員 55%)</p> <p>【分析】 「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は概ね良好であるが、教員の回答は否定的なものが多い。系列校、指定校、AO入試など学科試験が課せられない入試制度を利用している生徒が多く、教員の思いとして、授業で培った学力・知識を用いてチャレンジしてほしいという気持とのギャップがあると考えられる。 「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。また保護者対象の説明会などの機会も増えた。進路やキャリアに関する情報を提供し、選択肢を広げるために指導を強化したいという気持ちの表れであると分析できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者より、子どもが入学して目標がまだ持っていない時期に、適性検査などを行ってもらえて、自分を見つめる機会を作ってもらえたことを感謝しているという意見があった。</li> <li>・進路に関する情報の提供については、アンケートで「不足している」という意見は減ってきている。進路ガイダンスなど、ここ数年の取り組みが実を結んでいると思われる。</li> <li>・生徒からは、進学先で学べる事や就職先の情報が欲しいという意見があった。</li> <li>・また、大阪商業大学としては、設備もよくなってきており、教員との距離も近く、商業だけでなく、語学面とのサポートもできてきて、選択される幅を拡げてきているということを知ってもらいたいとの意見があった。</li> </ul>

<p><b>□生活指導</b></p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 64%、保護者 90%、教員 78%)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 92% 女 85%、保護者 95%、教員 31%)</p> <p>○「生活指導について納得度」 肯定的回答(生徒 男 74% 女 62%、保護者 89%、教員 62%)</p> <p>【分析】 「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者（生徒・保護者・教員）ともに肯定的回答が大部分を占めている。日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、女子の回答で否定的なものが若干目立つ結果となったが、約 70%の生徒は本校の規則を肯定的とらえている。「生徒が規則を守っている」は生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。生じている差が何であるか、分析する必要がある。「生徒は生活指導に納得している」に関しては、生徒は 40%前後が否定的にとらえている。『指導する』側（教員）と『指導される』側（生徒）の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくための取り組みが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や生徒のアンケートの自由記載では、もっときびしくしてほしいという意見も多くあった。</li> <li>・生徒からは、「本校のルールが厳しいとも緩いとも思わないし、ルールを守らず教員に指導されている生徒はクラスでも1～2人程度である」、教員に注意されても改善できていない状況については、「守っていない生徒のせいで全体が注意されるのは嫌だと思う。」という意見があった。</li> <li>・ルールやベル着ができていないかの評価が生徒と教員で差があるのは、8～9割りの生徒はできていても、教員から見たらできていない生徒がいる、または教室にさえいればいいという生徒の認識と、座って授業ができる状況を求める教員の認識の差からきているのではないかと。</li> <li>・保護者から、自転車マナーが悪く、校門前にたむろしていてあぶない。教員も立っていても注意していない、という意見があった。また、大学からも、危険な運転をしていて、事故にならないか心配であるという意見をいただいた。</li> <li>・本校では、11月から登下校時間に立ち番を行っており、生徒自治会の生徒も立ってくれている。また、校門で自転車をおりる指導を始めた、という現状を報告した。その中で、始業直前に登校する生徒に問題が多い点を指摘した。</li> </ul>
<p><b>□設備について</b></p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 48% 女 53%、保護者 75%、教員 20%)</p> <p>【分析】 「校内施設設備」については、否定的な回答が目立つ結果となった。現存の施設をまず有効的に使用し、並行して長期的な施設の改善を検討することも必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備については、事務も鋭意改善に向けて努力しているところではあるが、特に現在気になる点について意見を頂いた。</li> <li>・保護者から、食堂が極端に狭く、1年生は2、3年生に気兼ねして使用しづらいという意見があった。大学の食堂の利用も検討できないか、ということについては、生活指導面、安全面、大学生の利用時間とかぶるなど、実現は難しいとの回答があった。</li> <li>・生徒からはメニューや自販機の充実を求められた。</li> <li>・「新館のところより、東館のトイレは使いにくい。汚い。洋式のトイレが少ない」「廊下からトイレの中が見える」「トイレトーパーや飲み物のゴミをポイ捨てる生徒がいる」という生徒からの意見があった。掃除が行き届いていないというわけではなく、使用マナーの問題である。</li> <li>・保護者から廊下がすべりやすい、斜めになっている部分があるのが気になる、という意見があった。実際、来校者用スリッパがすべりやすく、来校者が転けそうになっている場面をたびたび見られることが指摘された。</li> <li>・平成29年4月より実施される1Fの二足共用について、生徒からは雨の日に裸足で歩くのは嫌だったので、よかったとの意見があった。</li> </ul>
<p><b>□その他</b></p> <p>○「あいさつの溢れる学校である」 肯定的回答(生徒 男 80% 女 77%、保護者 86%、教員 60%)</p> <p>○「入学して（させて）よかった」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 77%、保護者 91%、教員 86%)</p> <p>【分析】 「あいさつに溢れる学校」については、生徒からの肯定的意見は非常に高いが、教職員は否定的な数値が高い。数年前からの取り組みとして、行ってきているものであるが、さらに現状に満足せず、もっとあいさつに溢れるキャンパスを創り出したという気持ちの表れと言えよう。</p> <p>「入学して（させて）よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。しかし『どちらかといえばそう思う』が大半であり、『そう思う』が大半を占めるよう、また最終学年の第3学年の数値が向上するよう目指さなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からは、子どもが元気に学校へ行っており、楽しんでいけるとの意見を頂いた。</li> <li>・生徒アンケートで、上級生になるほど「入学してよかった」という意見が多くなるのは、教員の努力があると思われる。しかし、少数だが否定的な意見を持つ生徒がいるのを更に減らしていく努力が必要である。</li> <li>・挨拶してくれている生徒は多く感じるが、保護者の意見では、ほぼクラブ生だと思われる。生徒自治会の挨拶運動でも、挨拶してくれるのは多くがクラブ生か教員であるということである。教員からも積極的に挨拶し、形式的なものではなく、コミュニケーションの一つとして声を掛け合える雰囲気をつくっていききたいと回答された。</li> </ul>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 学習指導構想	<p>(1)学習活動の意識付けと家庭学習の習慣づけ ○授業を真剣に取り組む姿勢の育成と、授業内容の充実を図り中途退学者の減少を目指す ○高大連携の進展を目指す、特に系列大学との連携を強化する ○外部講師による授業を、有効に進学実績に繋がるようにする ○成績等のデータをシステム管理し有効利用を目指す、また教材教具の充実を図る</p> <p>(2)不登校など生徒への指導 ○不登校生徒に対する教室復帰への補助と学力保障の取り組みを行う ○特別支援教育の取り組み強化、カウンセリングの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習推進への取り組み</li> <li>・充実したカリキュラムと授業展開、生徒の力を引き出す進路指導、生徒の意欲と人間性を育む課外活動の充実</li> <li>・ベル着を徹底し、授業を最優先に取り組む。また授業内容の充実を図る</li> <li>・不登校生に対する学力保証の取り組み</li> <li>・評価の公平さと適性を図る</li> </ul>	<p>各検定試験合格数について目標設定・評価</p> <p>英検準2級→受験者数の60%合格</p> <p>全商簿記検定2級→受験者数の50%合格</p> <p>漢検2級→受験者数の50%合格</p> <p>ICT プロフィシエンシー検定(P 検)の受験→3級合格</p>	<p>・英検準2級合格→合格95名&lt;受検400名&gt; ---合格率 23.8%</p> <p>・全商簿記検定2級 →合格42名&lt;受検289名&gt; ---合格率 14.5%</p> <p>・漢検2級合格→合格0名&lt;受検14名&gt; ---合格率 0%</p> <p>・P 検→3級合格62名&lt;受検数206名&gt; ---合格率 30.1%</p>	<p>△</p> <p>×</p> <p>×</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>○</p>
□ 生活指導構想	<p>(1)「建学の理念」の柱「思いやりと礼節」を持った、人として立派な人物養成を目指す ○ぶれない、生徒の心に響く指導を根気強く行う ○基本的生活習慣の確立 ○社会的マナーを遵守する姿勢の向上 ○保護者・生徒との面談と意思疎通の更なる拡大</p> <p>(2)自治活動の更なる活性化。あいさつ運動の推進 地域活動との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶれない、生徒の心に響く生活指導</li> <li>・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導</li> <li>・基本的生活習慣と社会的マナーを遵守する姿勢を育てる。挨拶運動の推進</li> <li>・人間性を高める取り組みを行う</li> <li>・指導に対する教員集団のスキルアップを図る</li> <li>・自治活動の更なる活性化</li> </ul>	<p>懇談会を年最低2回以上実施</p> <p>カウンセリングの充実</p> <p>学校全体の年間遅刻数を5000以下にする</p> <p>朝の学校周辺の清掃活動の定着</p>	<p>少なくとも1学期末、2学期末に実施。不登校気味の生徒に対して、必要に応じて家庭訪問を実施し、保護者と情報交換を行った</p> <p>カウンセリングが実施回数271回&lt;昨年315・一昨年229&gt;は、昨年よりは若干減少したが、引き続き高い数値を表している。これは、2人のカウンセラーの尽力とカウンセリングそのものが本校で定着してきた結果と思われる</p> <p>年間遅刻数6360名&lt;昨年6201・一昨年5911&gt;昨年度より目標数を6000→5000へとして、目標達成するべく指導を行ったが、大幅に数値を上回ってしまった。在籍生徒数は増加しているが、目標値を下げずに、数値目標達成に向けて、取り組みたい。</p> <p>必要に応じて、クラブなどの協力で清掃活動を行った</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>×</p> <p>○</p>
□ 進路指導構想	<p>(1)系列大学を含めての連携 ○系列大学との高大連携の取組を強化する(系列大学の魅力を生徒に浸透させる) ○大阪商業大学附属幼稚園との連携を強化する</p> <p>(2)一般入試・センター試験にチャレンジする生徒を増やし、その指導を強化する ○安易な進路選択を避け、自分の目標に向かって行く意欲と学力を育む</p> <p>(3)学習指導と進路意識の高揚を図る(総合の時間等の利用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系列大学との連携を強化するとともに、センター試験にチャレンジする生徒を増やす</li> <li>・安易な進路選択を避け、自分の目標に向かう意欲と学力を育む</li> <li>・データの蓄積とその活用を図る</li> <li>・全教員の進路指導のスキルアップを図る</li> </ul>	<p>センター試験受験者20名以上</p> <p>近畿圏難関私立大学へ受験者40名以上</p> <p>近畿圏難関私立大学へ合格者20名以上</p> <p>就職内定率90%以上</p> <p>卒業後のフリーター・未定者を5%以内</p> <p>系列大学との連携を強化</p>	<p>センター試験出願数39名となり過去最高値(文理27、商7、美4、ス1) 国公立大学合格者を複数名出すことができた(徳島大学・都留文科大学)</p> <p>近畿圏難関私立大学受験者39名</p> <p>近畿圏難関私立大学合格者28名</p> <p>77%(30名中、23名内定)</p> <p>3.9%(360名中、14名)</p> <p>大阪商業大学 92名(25.6%) 昨年24.3% 神戸芸術工科大学 9名(2.5%) 昨年1.0% 昨年より微増した。その中でも大阪商業大学GETコースへの合格者3名、神戸芸術工科大学系列校特待生2名を輩出することができた</p>	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>○</p>

□ 入試・渉外構想	(1)基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市をしっかりと押さえ、近鉄奈良線沿線生駒市・奈良市および、阪神なんば線沿線の中学校から、安定した入学生徒数を確保する (2)入試広報の効果アップを図る (3)学校の教育姿勢および各コースのコンセプトの周知を図る (4)特化したコース<文理進学・スポーツ・デザイン>の浸透を図る (5)オープンスクール・塾対象説明会・入試説明会・デッサン講習会等の充実を図る (6)重点地域への広報活動(地元を含め、重点地域へのピンポイント広報)を進める (7)対中学校・対塾の渉外活動の連携を強化し、バランスを取りながら渉外活動の成果を図る	・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る ・仕事内容を整理し、その担当分掌を明確にする。次年度以降の活動をより効果的にする	オープンスクール 入試説明会 塾対象説明会  の参加数増加	<オープンスクール> 第1回+第2回 677組(昨年552名)増 <入試説明会> 第1回~第3回 811組(昨年712名)増 上記2件については昨年度を上回る数値となった。この数値が入学試験受験数および入学数に反映していると分析できる。 <塾対象説明会> 71塾(昨年72塾) 微減	◎
			ホームページ作成	新着情報の更新頻度が増やすことができたパンフレットとホームページを連動して複数年契約で作成する契約を行い、本年が2年目。企画広報部が窓口となって運営している。	◎
			出前授業への対応	中学校への出前授業は6中学9講座(昨年9中学)	○
			平成29年度入学試験の受験数	出願数 1390名(昨年1375名)微増 専願 334名(昨年313名)増 併願 1056名(昨年1062名)微減 入学数 489名(昨年431名)増	○
□ 教員の研究・研修構想	(1)教員研修を年3回以上の実施・学校評価と連動して研究・公開授業の実施を進める (2)生徒アンケート・公開授業実施を通して、授業の充実・教育力のアップを図る (3)今年度は実践校訪問および研修を実施する特に内容としては、今後の高大接続改革・学習指導要領改訂に備える取り組みとする (4)外部研修会への積極的な参加を図る(有名予備校実施の授業力アップ講座受講を継続する) (5)危機管理教育の徹底	・公開授業の実施 ・研究授業の実施 ・校内教員研修会(E研修会)の実施 ・授業アンケート等の活用による教育力向上 ・外部研修会への積極的参加	授業公開の有効活用	22名の教員が授業公開を行った。実施については、概ね肯定的な回答がなされている	○
			校内教員研修	教員対象校内研修会を実施(エデュケーションネットワーク主催) ①全体会(新学習指導要領など) ②若手・中堅対象(スクールコミュニケーション) ③若手・中堅対象(スクールコンプライアンス) ④4名参加(首都圏実践校訪問) ⑤全体会(上記①~④プレゼン)	○
			外部研修会への参加	教科指導、生徒指導、新学習指導要領等の外部研修会に参加	○
□ その他	(1)地域との交流を深める(あいさつ運動、地域清掃、学校評価への参加、学校行事への参加等) (2)国際感覚の育成と英会話に実地体験 ○海外修学旅行の実施・内容の充実を図る (3)学校評価の取り組みとその活用 (4)衛生管理上、教職員の勤務時間が著しく超過しないように配慮する (5)経費(積立金・諸費用等)の適正な処理と保護者負担の軽減を図る	・教務システムの定着と、データ管理を留意し、それを有効に活用する ・地域との連携	修学旅行の実施	本年度12月ハワイへの修学旅行を実施。次年度もハワイを目的地として実施する予定。学年団を中心に、事前指導(地理、歴史、言語など)を行った。	○
			修学旅行目的地の見直し	国内を目的候補地として視野に入れ、修学旅行検討委員会を設立、検討を始める。2地域の視察を行った	○
			学校評価	年度末(3月)に学校評価会議を実施した。本校教員、本校生徒、保護者、大学関係者と会議を行った。ただ、地域の方を招いて意見を交換することができず、今後地域の方々との連携を検討していきたい。	△